慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	スポーツ施設（球技場）建設に関するフィージビリティ・ スタディ
Sub Title	
Author	川床倫康(Kawatoko, Michiyasu) 柳原一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第828号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0828

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.828

学生氏名　川床　倫康

主査　柳原　一夫
副査　柴田　典男
滝沢　茂

所属　柳原　一夫　研究室

スポーツ施設（球技場）建設に関するフィージビリティ・スタディ

本論文は、地方自治体がスポーツ施設の建設を計画する際に、どのような事を考慮し、最終的にいかにして意思決定がなされるべきであるかということを論じたものである。

具体的には、宮城県が現在建設を計画している陸上競技場を例として取り上げ、この計画が建設目的の一つである、サッカーの世界選手権の試合会場として、本当に適切なものであるのかどうかという事を検討している。

その手法としては、国内開催都市として他の都道府県と争うための競争分析や、建設にかかる費用と収益のシュミレーションによって、投資の許容範囲をさぐる分析等である。さらに、定量的な分析だけでなく、宮城を代表とする東北地方のスポーツ文化の振興、東北に対する宮城の役割等の定性的な分析も加えてある。

結論としては、現在の建設計画よりも、さらに施設の収容人数を増やすこと、それにともなって増加が予想される観客のための宿泊施設等の整備をすることとなった。世界選手権の試合会場になることは、二次的な目的であったかもしれないが、建設計画には環境分析と先見性を持たせるべきではないだろうか。